評価調査結果要約表

1. 案件の概要		
国名：タンザニア連合共和国		案件名：村落給水事業実施・運営維持管理能力強化プロジェクト フェーズ 2
分野：村落給水		援助形態：技術協力プロジェクト
所感部署：地球環境部		協力金額（評価時点総額見込み）：3.8 億円
協力期間	2011 年 8 月-2014 年 7 月 （3 年間）	先方協力機関：水省

2. 協力の背景

タンザニアは、94 万 5 千ｋ㎡の国土に約 4,160 万人の人口を擁するが、その約 82.5%にあたる約 3,430 万人が村落部に居住している。しかし、2010 年時点で村落部における安全な水へのアクセスは 58.7%に限られており、約 1,420 万人が汚染の恐れのある水源を使用している。

タンザニア政府は、第 2 次国家水政策（2002 年）に基づき、セクターワイドアプローチ（SWAP: Sector Wide Approach to Planning）のコンセプトをベースにした水セクター開発プログラム（WSDP: Water Sector Development Programme）を 2007 年 2 月に立ち上げた。WSDP の 4 コンポーネントの 1 つである「村落給水・衛生」では、2025 年の Tanzania Development Vision のゴールまでに地方部で 90%の給水率を達成することを目標としており、そのための方策として、地方給水衛生プログラム（RWSSP: Rural Water Supply and Sanitation Programme）を定めている。

WSDP/RWSSP では、従来の中央政府主導の村落給水事業実施及び運営維持管理体制（水省が新規村落給水施設建設を行い、同省の指導の下、コミュニティが給水施設の運営維持管理を実施する体制）から、県にそれらの役割を委譲する地方分権化政策が定められており、それに沿った権限委譲が急速に進められた。そのため、WSDP/RWSSP を実施していくための県職員の村落給水事業の実施能力、及び給水施設の運営維持管理能力の強化が必要となっていた。

このような背景から、2005 年にタンザニア政府から我が国に対して技術協力プロジェクト「村落給水事業実施・運営維持管理能力強化計画（通称 RUWASA-CAD、以下フェーズ１）」が要請された。フェーズ 1 は 2007 年 9 月から 2010 年 8 月までの 3 年間、パイロット 4 州（コースト州、ダルエスサラーム州、リンディ州及びムトワラ州）において実施され、県給水・衛生チーム（DWST: District Water and Sanitation Team）を中心とした能力向上を行うための各種研修教材及び研修実施スケジュール等（以下「RUWASA-CAD 研修パッケージ」）がまとめられ、これによる研修も実施された。

一方で、WSDP/RWSSP 自体については、全国の DWST 等の給水計画の策定能力やバスケットファンドを用いた施設建設のためのプロジェクトマネジメント能力が不十分であることから進捗が遅れている。そのため、WSDP/RWSSP 実施に携わる関係機関の能力強化の重要性が再認識されており、全国の DWST（県給水衛生チーム、District Water and Sanitation Team）、RWST（州給水衛生チーム、Regional Water and Sanitation Team）、BWO（流域管理事務所、Basin Water Office）が能力強化を行っていくための体制の構築、及びこれを支援する水省の能力強化が必要となっている。また「タ」国は地域によって自然条件、社会条件が異なるため、研修パッケージを各地域の特性に合わせたものへと改良する必要もある。

本プロジェクトは、このような背景により「タ」国から 2009 年に提出された要請を受けて実施するものであり、これらの課題への対応に加え、パイロット地域の対象コミュニティで運営・維持管理までの支援を行うことにより、コミュニティレベルにおける実践に基づいた能力開発支援が行われることを目指す。

JICA は 2010 年 11-12 月にかけて詳細計画策定調査団を派遣し、プロジェクトの概要についての合意がなされ、2011 年 5 月 23 日に討議議事録（R/ D）が署名された。このような状況を受け、本技術協力プロジェクトは、2011 年 8 月から開始され、2014 年 7 月までの 3 年間の予定で実施されている。

【協力内容】

（1）　上位目標
DWST、RWST 及び BWO の村落給水・衛生事業に関する運営維持管理能力が強化される。

（2）　プロジェクト目標
水省コミュニティ給水局（CWSD: Community Water Supply Division）によって提供される全国の DWST、RWST 及び BWO を対象とした能力開発支援が強化される。

（3）　アウトプット
1. RUWASA-CAD 研修パッケージが改善され、水省によって採用される。
2. 各地域の自然環境及び社会経済状況に適応した研修の補完教材が開発される。
3. 全国の DWST、RWST 及び BWO に対する水省 CWSD の研修支援体制が強化される。
4. 全国の DWST、RWST 及び BWO に対する水省 CWSD の研修支援体制が強化される。

（4）　投入（2013 年 1 月時点）
日本側：総投入額　1.93 億円
・専門家派遣：6 名
・機材供与：約 0 円
・ローカルコスト負担：約 17,946 千円
タンザニア側：総投入額　972 千円億円
・カウンターパート配置：5 名
・土地・施設提供：専門家執務室
・ローカルコスト負担：17.6 百万 Tsh.　（約 972 千円相当）

2. 評価調査団の概要

調査者	（1）総括/村落給水	村上　敏雄	JICA 国際協力人材部　国際協力専門員
	（2）調査企画	森口　隼	JICA 地球環境部水資源第二課職員
	（3）評価分析	中村泰徳	グローバルリンクマネージメント株式会社
調査期間	2013 年 1 月 6 日-2013 年 1 月 26 日		評価種類：中間評価

3. 評価結果の概要

3-1. 実績の確認

【プロジェクト目標：水省コミュニティ給水局によって提供される全国の DWST、RWST 及び BWO を対象とした能力開発支援が強化される。】

プロジェクト目標の達成のためには、CWSD による CD 支援が高い満足度を受け（指標 1）、DWST、RWST 及び BWO がコミュニティ、DWST 及び RWST/DWST に対して RWSS 事業に関する指導を行う（指標 2、3 及び 4）必要がある。

現時点で、パイロット地域のタボラ州ウユイ県及びシコンゲ県に対するアンケート調査において、DWST の CD に対するコミュニティ給水局の支援に関する満足度が 80%を超えている。しかし、本指標が目指すタンザニア本土の DWST、RWST 及び BWO の CD の実施に対するコミュニティ給水局による支援は、現時点で実施されていない。

パイロット地域において、プロジェクト実施前は、COWSO による給水施設の運営とメンテナンスをモニタリング・指導する DWST は存在しなかったが、タボラ州のウユイ県およびシコンゲ県の DWST が COWSO の給水施設運営・管理のモニタリングを開始した。その他 4 つのパイロット DWST においても、COWSO による運営とメンテナンスのモニタリングを開始する意向が示されている。

本プロジェクトにおける DWST の活動は、すべて RWST を介して行われてきたため、プロジェクト開始以前と比較すると、パイロット地域の DWST に対する RWST の指導件数は増加している。

パイロット地域の DWST は、プロジェクト開始以前から、水源開発や水利権獲得のため BWO に

対して指導を求めていたが、本プロジェクトにより実施された研修により、BWO と DWST/RWST 間のコミュニケーションがより円滑になり、指導件数は増えつつある。しかし、BWO および DWST/RWST は、異なる行政組織に所属しているため、BWO が DWST 及び RWST に対して指導を行うことの行政組織上の難しさも指摘された。

指標	内容	達成状況
1	水省コミュニティ給水局によって提供される能力開発支援にかかる DWST、RWST 及び BWO の満足度が、平均で XX%以上に達する。	パイロット地域においては、DWST 及び RWST の CD に対するコミュニティ給水局の支援に関する満足度が 80%を超している。しかし、本指標が目指すタンザニア本土の DWST、RWST 及び BWO の C の実施に対するコミュニティ給水局による支援は、現時点で実施されていない。
2	パ ロット地域のコミュニティを対象とした DWST の指導件数が増加する。	タボラ州のウユイ県およびシコンゲ県で給水施設の運営・管理のモニタリングが COWSO によってはじめられた。その他 4 つのパイロット県においても、COWSO による運営とメンテナンスのモニタリングを開始する意向が示されている。
3	パイロット地域の DWST を対象とした RWST の指導件数が増加する。	DWST に対するすべての指導は、RWST を介して行われるため、パイロット地域の DWST に対する RWST の指導件数は、増加している。
4	パイロット地域の D ST 及び RWST を対象とした BWO の指導件数が増加する。	パイロット地域の DWST は、水源開発や水利権獲得のために BWO に対して指導を求めていることが確認された。しかし、BWO および DWST/RWST は、異なる行政組織に所属しているため、BWO が DWST 及び RWST に対して指導を行うことの難しさも指摘された。パイロット地域においては、本プロジェクトにより実施された研修により、BWO と DSWT/RWST 間のコミュニケーションが円滑になったが、上記の行政組織上の問題により、BWO が DWST 及び RWST が村落給水衛生事業に係る指導を実施することは難しい状況は変わっていない。

【成果 1：RUWASA-CAD の研修パッケージが改善され、水省によって採用される。】

アウトプット 1 の達成のためには、RUWASA-CAD 研修パッケージが PIM の添付資料として採用され（指標 1-2）、研修モジュラーガイドが DWST、RWST 及び BWO によって利用される（指標 1-1）必要がある。

現時点では、「RUWASA-CAD 研修パッケージ」は、PIM の添付資料として採用されていない。一方、「RUWASA-CAD 研修パッケージ」を作成する際の参考資料である「RWSS プロジェクトサイクル」が PIM に取り込まれた。指標 1-2 に関しては、中間レビューまでに、プロジェクトメンバー内で、「RUWASA-CAD 研修パッケージ」ではなく、「RWSS プロジェクトサイクル」及び「研修モジュラーガイド」を PIM に取り込むことの方が指標として適切との合意を得ている。RUWASA-CAD 研修パッケージは、WSDP 実施機関の研修ニーズにより適宜変更されるもので、PIM の別添資料としてはふさわしくないと判断されたことが理由である。

一方、研修モジュラーガイドは DWST、RWST 及び BWO によって活用されていない。これは、研修モジュラーガイドは、DWST、RWST 及び BWO の CD 計画に含まれる研修を実施する際に用いら

れるが、CD 計画自体が実施されていないためである。

指標	内容	達成状況
1-1	コミュニティ給水局によって配布された研修モジュールガイドを活用する全国の DWST、RWST 及び BWO が XX%以上となる。	中間評価時点では、DWST（県給水衛生チーム、District Water and Sanitation Team），RWST（州給水衛生チーム、Regional Water and Sanitation Team）および BWO（流域管理事務所、Basin Water Office）は、研修モジュラーガイドを活用していない。研修モジュラーガイドは、DWST、RWST 及び BWO の CD 計画に含まれる研修を実施する際に用いられるが、CD 計画自体が CD 計画実施のための唯一の財源である WSDP フェーズ 1 からの資金不足により実施できていない状況である。また、CD 計画自体が活用可能な資金を基に作成されておらず、実施可能な計画となっていない。
1-2	RUWASA-CAD 研修パッケージの RWSSP 事業実施マニュアル（PIM）添付資料に採用される。	現時点では、「RUWASA-CAD 研修パッケージ」は、PIM（プログラム実施マニュアル、Programme Implementation Manual）に取り入れられていない。一方、RUWASA-CAD 研修パッケージを作成する際の参考資料である「RWSS プロジェクトサイクル」が PIM に取り込まれた。プロジェクトメンバー内における協議の結果、本指標については、RUWASA-CAD 研修パッケージではなく、「RWSS プロジェクトサイクル」及び「研修モジュラーガイド」を PIM に取り込むことの方が適しているということで合意している。理由として、RUWASA-CAD 研修パッケージは、WSDP 実施 関の研修ニーズにより変更されるもので、PIM の別添資料としてはふさわしくないと判断されたからである。

【成果 2：各地域の自然環境及び社会経済状況に適応した研修の補完教材が開発される。】

アウトプット 2 の達成のためには、タンザニア本土各地域の自然環境及び社会経済状況に適応した補完教材が作成され（指標 2-1）、同補完教材が利用者から高い満足度を得る（指標 2-2）必要がある。

現時点で、パイロット地域の自然環境及び社会経済状況などの地域特性を分析した結果、タンザニア本土各地域の地域特性に適応した補完教材が以下の通り作成された。

1. 水理地質予察図とその解説
2. 岩盤地域での地下水調査法の解説と調査事例の紹介
3. フッ素による健康被害の解説
4. フッ素濃度分布図
5. 給水率分布図、人口密度分布図

また、パイロット地域における研修受講者に対するアンケート調査の結果、研修参加者の 90%以上が、補完教材を「とても良い」または「良い」と評価した。

指標	内容	達成状
2-1	XX の研修補完教材が作成される。	パイロット地域の自然環境及び社会経済状況などの地域特性を分析した結果、以下の 5 つの補完教材が完成した。

		1.水理地質予察図とその解説 2.岩盤地域での地下水調査法の解説と調査事例の紹介 3.フッ素による健康被害の解説 4.フッ素濃度分布図 5.給水率分布図、人口密度分布図
2-2	研修補完教材の内容に関する研修受講者の満足度が XX 以上を達成する。	パイロット地域における研修受講者に対するアンケート調査の結果、研修参加者の 90%以上が、補完教材を「とても良い」または「良い」と評価した。

【成果 3：全国の DWST、RWST 及び BWO に対する水省コミュニティ給水局の能力開発支援体制が強化される。】

アウトプット 3 の達成のためには、全国版の研修リソースインベントリが DWST、RWST 及び BWO に使用され（指標 3-1）、研修指導要領が作成され（指標 3-2）、CWSD が DWST、RWST 及び BWO の CD 計画における RWSS 関連研修のための予算配分のファシリテーションを行う（指標 3-3）必要がある。

現時点では、タンザニア本土全域の DWST、RWST 及び BWO が研修を実施する際に活用する資料である全国版の研修リソースインベントリは作成されていない。一方、2012 年 5 月に研修指導要領の第 1 版ドラフトが完成している。

村落給水・衛生関連研修に必要な予算配分に関するコミュニティ給水局のファシリテーションに関しては、現時点ではタンザニア本土全域の DWST、RWST 及び BWO に対して実施されていない。

指標	内容	達成状況
3-1	研修リソースインベントリを活用する DWST、RWST 及び BWO の割合が全国で XX%以上となる。	現時点では、全国版の研修リソースインベントリは作成されていない。研修リソースインベントリは、DWST、RWST 及び BWO が CD 計画に含まれる研修を実施する際に活用する資料であるが、予算不足により CD 計画がプロジェクト終了時までに実施されることはないと推測されているためである。全国版のリソースインベントリは、WSDP 全体のインベントリ作成方針が策定される 2013 年 6 月以降に作成する予定に変更されている。
3-2	2013 年 11 月までに研修指導要領を完成させる。	2012 年 5 月に研修指導要領の第 1 版ドラフトが完成した。第 版ドラフトには、モニタリング・評価のセクションを含めていないが、2013 年 6 月に WSDP のモニタリング・評価フレームワークが作成される予定であり、その後に追加される予定である。
3-3	村落給水・衛生関連研修に必要な予算配分及び研修の実施方法に関して、コミュニティ給水局のファシリテーションを受ける全国の DWST、RWST 及び	現時点では、村落給水・衛生関連研修に必要な予算配分に関して、コミュニティ給水局のファシリテーションを受けている全国の DWST、RWST 及び BWO は存在しない。本指標における CWSD（コミュニティ給水局、Community Water Supply Division）のファシリテーションは、CD 計画における研修を実施する際に行われるものであるが、CD 計画実施のための

	BWO が増加する。	予算が不足していることや CD 計画そのものが財源を確保せずに作成されたことが原因で CD 計画が実施されていないためである。また、CWSD および DWST/RWST が、異なる省庁の傘下にあることや、BWO が、CWSD はなく WRD（水資源局、Water Resources Division）の傘下にあることなどタンザニアの行政組織においては、CWSD から DWST、RWST 及び BWO に対してファシリテーションを実施することが難しいことも原因である。

【成果 4: パイロット地域のコミュニティにおける給水状況の改善へ向けた取り組みが強化される。】

アウトプット 4 の達成のためには、パイロット地域の DWST がコミュニティに対して指導を行い（指標 4-1）、コミュニティが給水施設利用料の回収率を上げる（指標 4-2）必要がある。

現時点で、パイロット地域であるタボラ州の 2 つの県（ウユイ県およびシコンゲ県）で COWSO による給水施設の運営とメンテナンスのモニタリングが開始された。その他 4 つのパイロット県においても、COWSO による運営とメンテナンスのモニタリングを開始する意向が示されている。

一方、DWST による COWSO モニタリングは、タボラ州のパイロット COWSO に対して開始されて間もないため、COWSO の給水施設利用料の回収率に関しては、進捗が見られなかった。モニタリングを開始したウユイ県で、COWSO から DWST に提出される月報が 2012 年 11 月初めて提出されたところである。

指標	内容	達成状況
3-1	パイロット地域で DWST による指導を受けるコミュニティの数が増加する。	現時点では、パイロット地域の DWST 及び RWST に対する研修およびタボラ州の 2 つの県（ウユイ県およびシコンゲ県）で COWSO による給水施設の運営とメンテナンスのモニタリングが開始された。その他 4 つのパイロット県においても、COWSO による運営とメンテナンスのモニタリングを開始する意向が示されている。
3-2	給水施設の料金徴収率が向上したパイロット地域の対象コミュニティの割合が XX%以上となる。	COWSO によるモニタリングは、タボラ州のパイロット対象 COWSO で開始されて間もないため本指標は進捗が見られない。COWSO から DWST に提出される月報が最近初めて提出されたところである。また、水の料金徴収については、天候などプロジェクトでは管理できないその他の要件の影響をうける事が判明した。

3-2. 評価結果の要約

(1) 妥当性：概ね高い

プロジェクトは、タンザニア、日本の政策、及びタンザニアのニーズに以下の通り合致している。

i) 国家水政策（2002）及び WSDP（2005-2025）は、現時点で有効である。

ii) 2012 年 6 月に策定された日本の対タンザニア国別援助方針は、給水施設の開発とその運営管理のための人材育成を重点支援分野の一つに設定している。

iii) WSDP 実施における地方自治体や州政府の能力の低さは現時点でも指摘されており、WSDP

実施機関の能力強化は必要とされている。

iv) プロジェクトのロジックは適切と考えらえる。しかし、CD 計画が問題なく実施されることを前提としたプロジェクトデザインは、適切とは言えない。

(2) 有効性：低い

中間レビューまでのプロジェクトの進捗状況から判断すると、プロジェクト目標が達成される可能性は低いと考えらえる。

(3) 効率性：低い

以下の投入、活動、アウトプットの実績から、中間レビュー時点では効率性は低いと考えられる。

i) 日本側・タンザニア側からの投入の質、量、タイミングは、タンザニア側のプロジェクトメンバーの活動を除けば、概ね適切と判断される。

ii) 本邦研修に関しては、参加者が帰国後プロジェクト実施に積極的に参加していることが確認された。

iii) アウトプット 3 の活動は、計画通り実施されておらず、またアウトプット 1，3 に関しては、中間レビュー時点までで達成されることが期待された成果を達成できていない。

(4) インパクト：判断することが難しい

既存の指標では、上位目標の達成見込みを判断することは難しい。指標 1 は、指標の定義が明確ではないこと、指標 2 は、目標値の設定が現時点までにできないことが理由である。

(5) 持続性：低い

持続性は、以下の観点から分析して低いと考えられる。

i) 政策・制度面の持続性は高いと考えられる。WSDP（2005-2025）は、プロジェクト終了後も有効であり、プロジェクトによる成果の継続を支援することが期待される。

ii) 組織面の持続性は低いと考えらえる。タンザニア側プロジェクトメンバーの管理者レベルはプロジェクトに積極的に協力しておらず、タンザニア側の主要プロジェクトメンバーである村落給水局能力強化・研修課も積極的にプロジェクト活動に参加していない。また、DWST や RWST の主管省庁である地方自治省がプロジェクト実施に含まれていない。

iii) 財政面の持続性は低いと考えられる。本プロジェクトの成果が財政面で持続するためには、CD 計画実施予算が継続的に確保される必要がある。しかし、中間レビューまでは、CD 計画実施のための予算不足や予算過多の CD 計画が DWST、RWST 及び BWO が CD 計画を実施することを困難にし、CWSD が同計画における研修の実施を支援する機会を持てていない状況である。

iv) 技術面の持続性は、概ね高いと考えられる。CWSD は、DWST、RWST 及び BWO による研修実施を支援できる技術知識をある程度有していると日本人専門家より評価されている。

3-3. 効果発現に関する貢献要因

(1) 計画内容にかかわること

i) 特になし。

(2) 実施プロセスにかかわること

i) 数名のタンザニア側プロジェクトメンバーが積極的にプロジェクト活動に参加した。

3-4. 効果発現に関する阻害要因

(1) 計画内容にかかわること

i) CD 計画が実施されないリスクに対する対応を計画に含めていなかった。

(2) 実施プロセスにかかわること

i) 村落給水局の管理者レベルがプロジェクト活動の実施に協力的でなかった。

ii) WSDP により DWST、RWST 及び BWO の CD 計画実施のために配賦された予算が既存の CD 計画実施のためには十分でなかった。

iii) 既存の CD 計画が活用可能な予算に基づいて策定されたものではないため、CD 計画自体が財政的に実施不可能であった。

iv) CWSD と DWST/DWST の主管省庁が異なり、BWO がタンザニア側プロジェクトメンバーの中心である CWSD と水省の異なる部局に属しているため、CWSD が DWST、RWST 及び BWO に指導することが行政組織上難しい。

3-5. 結論

中間レビュー時点までに、RUWASA-CAD 研修パッケージの改善に係る活動（アウトプット 1)、補完教材の作成（アウトプット 2)、研修コンサルテーションガイドの第 1 ドラフトの作成（アウトプット 3)、及びパイロット地域における研修の実施（アウトプット 4）が概ね計画通り実施された。しかし、DWST、RWST 及び BWO による CD 計画実施予算の不足、CD 計画自体の予算過多が主な原因となり、アウトプット 1 及びアウトプット 3 の達成レベルが低かった。

5 項目評価に関しては、妥当性は概ね高いと考えられるが、効率性、有効性、持続性は、中間レビューまでのプロジェクト進捗状況を分析すると低いと考えられる。インパクトに関しては、上位目標の既存の指標ではその達成見込みの判断が難しい。

3-6. 提言

1. DWST、RWST 及び BWO による CD 計画の実施（対象：日本人専門家及び水省）

本レビューにおいて、アウトプット及びプロジェクト目標を達成する阻害要因として CD 計画の未実施が確認された。プロジェクト後半では、CD 計画の実施を確保するために以下の活動を実施する必要がある。

i. DWST、RWST 及び BWO が作成した CD 計画が入手可能な予算内で実施されるよう、プロジェクトはそれらの CD 計画を予算的に実行可能な内容に改訂することを支援する。

ii. MTEF の 2012/13 年度及び 2013/14 年度の CD 計画実施のための WSDP 予算が計画通りに配賦されるよう、WSDP のテクニカルワーキンググループにおいて予算執行のフォローアップを行う。

iii. DWST、RWST 及び BWO が CD 計画実施のために配賦された予算の一部を研修の実施に活用するよう、水省が行政指導を行う。

iv. DWST、RWST 及び BWO が研修実施予算を確保できるよう、研修実施のための財源を拡大する。各機関は、WSDP 予算以外の財源として、各機関の歳入を研修に活用することを検討する。

v. パイロットエリアでの研修を開始するためにタンザニア全土のリソースインベントリを作成する。

2. タンザニア側プロジェクトメンバーのオーナーシップ（対象：タンザニア側プロジェクトメンバー）

本レビューにおいて、一部のタンザニア側プロジェクトメンバーのオーナーシップが低いことが、プロジェクトの有効性・持続性にマイナスの影響を与えていることが確認された。プロジェクト目標を達成するために、タンザニア側プロジェクトメンバーは、プロジェクト目標の達成のためにより積極的に参加する。特に幹部レベル及び CB&T の参加が必要である。

i. タンザニア側プロジェクトメンバーの管理者レベルはプロジェクトの実施に協力する。
ii. コミュニティ給水局内の業務分担では、DWST、RWST による CD 計画実施のモニタリング・指導は、CB&T が担当することとなっており、本プロジェクトの実施においても同課から最低 1 名の職員を継続的に配置する。

3. タンザニアの行政機構に合わせたタンザニア側プロジェクトメンバーの配置（対象：タンザニア側プロジェクトメンバー）
本レビューにおいて、タンザニアの行政機構を考慮していないプロジェクト実施体制がアウトプット達成の阻害要因となっていることが確認された。プロジェクト後半はタンザニアの行政機構を考慮したプロジェクト実施体制とすることが必要である。
i. CWSD が DWST 及び RWST にコンタクトすることを容易にするため、地方自治省（PMO-RALG）の水セクター調整グループのメンバーをタンザニア側プロジェクトメンバーに加える。
ii. 水資源局（WRD）は、タンザニア側プロジェクトメンバーの一部局として位置づけられているが、プロジェクトが支援する BWO は WRD の傘下であり、WRD に関しても、CWSD と並んでプロジェクト実施の中心的部局としてとらえる。

4. パイロット地域における COWSO の運営状況モニタリングの継続（対象：日本人専門家、タンザニア側プロジェクトメンバー及びパイロット地域の DWST）
i. 既存の PDM における COWSO の運営状況を測る指標（給水施設使用料に係る指標）は、指標の目標を設定することが困難なため指標の変更を提言するため、PDM 上は COWSO の運営状況をモニタリングする必要がなくなるが、パイロット地域の DWST による COWSO 支援の COWSO の運営状況に対する影響を把握するために、パイロットエリアにおける COWSO の運営状況を継続してモニタリングする。

3-7. 教訓

1. 本中間レビューでは、日本側・タンザニア側で合意した最新の PO（2011 年 5 月 23 日版 POver.1）を基に活動の進捗状況の評価を行ったが、関係者間で最新ととらえる PO が異なっていた。本中間レビューを機に、PO ver.2 を作成し、プロジェクト関係者全員で共通する PO を基にプロジェクト実施を管理することが必要である。

2. 本プロジェクトは、WSDP バスケットファンド予算の活用を想定した技術協力プロジェクトであるが、同バスケットファンド予算の拠出が想定通りなされなかったため、一部のプロジェクト活動が実施できない状況であった。バスケットファンド予算を活用した技術協力プロジェクトは、想定通り予算が拠出されれば、少ない投入で大きい成果を達成することが可能であるが、バスケットファンド予算にプロジェクトの成果が大きく左右される側面を持っている。そのため、バスケットファンド予算の活用を想定した技術協力プロジェクトを形成する際は、バスケットファンド予算が確実に拠出されることを如何に見極めるか、またバスケットファンド予算が拠出されない場合のリスクを如何に担保するかを十分に検討する必要がある。

3. 本中間レビューは、クリスマス、正月直後の 1 月 6 日から実施されたため、評価スケジュールに関してタンザニア側カウンターパートとのコミュニケーションが事前に取れず、評価スケジュールが確定したのは先行調査団員が現地に到着した後だった。今回は、カウンターパート側

の配慮で臨機応変にインタビューが設定されたが、短い調査期間を効果的に活用するために、現地調査の時期は長期休暇の直後には設定しないことが望ましい。